

CONTENTS

大阪消防 9

表紙：大阪・関西万博を見据えた
実動訓練に参加した救急車両

01：コンテンツ／災害概況	28：市民表彰／救急安心センターおおさかだより
02：救急特集 増大する救急需要 これからの救急体制	29：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより
06：救急特集 No more!事故～撲滅への道～	30：落語DE火の用心
07：2025年大阪・関西万博	31：高齢者セーフティネット強化月間
08：警防技術練成会最優秀署に聞きました	32：【職務】令和5年度消防機器の改良及び開発並びに 消防に関する論文(論文の部)で最優秀賞受賞
12：Just Do It !	33：九条みなみの昇任試験問題研究所
14：Weave the past, Weave the future	34：【職務】令和5年中の規制対象物における 火災発生状況(1)
17：一緒に備えましょ！災害いつなんどき	36：現場に活かす!救急救命士国家試験問題
18：ケイボウタイムズ	37：消防漢字ガール
20：コマンドアイ	38：功績表彰
22：実録!!調査鑑識	40：アニマル環状線／編集後記
24：We are Rookies !	
26：大阪の消防NEWS	

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
7月中件数	1	1	10	26	38	3	0	1	12	54
令和6年 7月末累計	9	13	109	215	346	24	1	2	44	417
令和5年 7月末累計	11	11	84	222	328	23	1	3	67	422
累計比較	▲2	2	25	▲7	18	1	0	▲1	▲23	▲5

◎救急概況

	救急出場
7月中件数 (概数)	24,604
令和6年 7月末累計	161,450
令和5年 7月末累計	153,120
累計比較	8,330

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他の 消防活動
令和6年 7月末累計	2,760	784	0	701
令和5年 7月末累計	2,583	742	4	761
累計比較	177	42	▲4	▲60

2 「消防情報システムの更新」について

消防情報システムとは、119番通報の受付から、迅速に災害発生場所を特定し、GPS機能による消防車両の位置情報・動態情報を利用し、災害現場への経路や消防車、救急車等を選定、出場指令を行うもので、市民の安全・安心を守る上で重要な役割を果たす消防活動支援システムです。

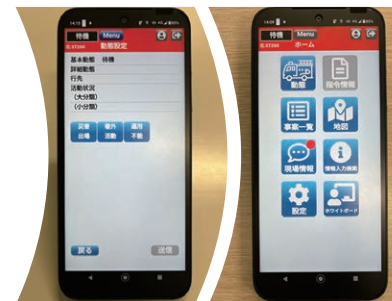
令和7年には、精度向上のために構築されたプログラムや基礎データの更新と、新たな機能を追加したシステムの導入が予定されており、救急隊の活動が、より効率的にかつ便利に行えるための機器の導入も計画されていますので、その一部をご紹介します。

■ 受令端末

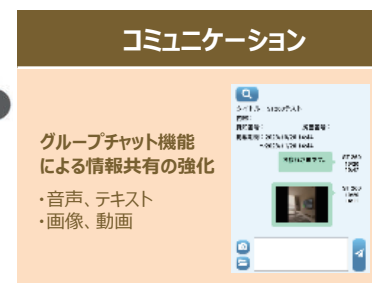
現在、各消防署の指揮隊車に災害活動用多機能電話（スマートフォン）を配付し、通話機能やインターネット検索、さらには電話と災害現場映像の共有ツールとして運用しています。しかし、災害現場映像を共有できるのは一部の消防隊や、指令情報センターのみと制限がありました。

そこで、新システム運用時には、現場活動を支援するスマートフォンを活用した「受令端末」を全車に導入することが予定されています。

この受令端末ではリアルタイム映像送受信機能により、災害現場の状況を映像で共有することで、災害対応力の向上が期待されるほか、指令書情報の確認や、動態設定及び医療機関情報の検索、グループチャット機能による情報共有の強化が図られます。



受令端末



増大する救急需要

これからの救急体制

令和2年、新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから、現在に至るまで、救急を取り巻く状況は困難を極めており、救急隊員は日々新たな難題に直面し、それらを乗り越えてきました。

そして今、また一つ大きな難題に立ち向かおうとしています。

令和5年における大阪市での救急出場件数は263,089件で大阪市史上過去最多の件数を記録しました。今後も高齢化の進展、気象環境や生活様式など社会の著しい変化を背景に、救急需要が一層増大していくことが予想されます。

今回は、救急特集として、今後の救急需要に応えるための救急施策や取組について紹介します。

1 「救急体制の強化」について

救急需要の増大に伴い、近くの救急車が駆けつけることができなくなることから、救急車が現場に到着するまでの時間が長くなっています。総務省消防庁から公表されている「令和5年版 救急・救助の現況」では、令和4年中の救急車の現場到着所要時間（入電から現場に到着するまでに要した時間）は全国平均で約10.3分、大阪市においては約11.9分となっており、延伸しています。

現場到着所要時間の延伸は、傷病者の救命率や容態変化に影響を与えるおそれがあることから、当局では、救急車の現場到着所要時間を短縮し、傷病者を少しでも早く病院へ搬送することを目的に増隊計画を立て、令和6年4月に住吉消防署万代出張所に救急隊を増隊し、現在73隊の救急隊を運用しています。また、熱中症が増加する夏季やインフルエンザ等感染症疾患の流行する年末年始を含む冬季のように著しく救急需要が高まる時期には、消火隊を一時的に救急隊に乘替え、増強救急隊として運用することで救急体制の強化を図っています。

しかしながら、令和5年の大阪市の救急出場件数は過去最多を記録し、今後も救急需要の増大が予想されるため、当局では救急件数に活動時間の要素も加味した独自の試算をもとに、令和7年度末までに更に3隊の増隊を計画し、合計76隊体制を構築する予定としています。



令和6年4月増隊 万代救急隊

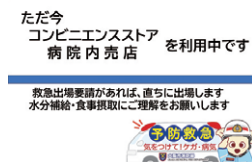
R5年度		R6年度		R7年度	
上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬
●南森町第2救急隊		●万代救急隊		3隊増隊（配置署所検討中）	
72隊		73隊		76隊	
隔動隊：69 日動隊：3		隔動隊：70 日動隊：3		隔動隊：73 日動隊：3	

※隔動隊：24時間勤務
日動隊：9時～17時30分勤務

3 コンビニエンスストア等の利用について

大阪市では年々救急件数が増加しています。1日に20件以上出場する救急隊もあり、救急隊員は水分補給や食事を摂る時間も無い状態でした。今後も救急出場件数が増加すると予想される中、連続出場や長時間の救急活動により、救急隊員の心身疲労が増加することが懸念されています。

そんな状況を踏まえて、令和6年7月1日から、救急隊員の水分補給などの体調管理を目的として、コンビニエンスストア及び搬送先医療機関内の売店を利用できるようにしました。



車両掲出用



4 救急需要抑制に向けた取組について

年々増加する救急需要を抑制するため、当局では様々な取組を実施しています。応急手当や予防救急の普及啓発を目的として、ホームページ「ボジョレーに教わる救命ノート」を開設し、大阪市内の駅や商業施設の街頭ビジョンで広報動画を放映するほか、YouTube・X(旧Twitter)・Instagram等SNSでの情報発信やイベントへ参加しての啓発も行っています。

また、突然のケガや病気の症状に対し、救急車を呼ぶべきか、病院へ行くべきかなど、判断に迷った際の相談窓口として「救急安心センターおおさか」も運用しています。

それらに加え、救急要請の中には、一部緊急性がないと思われる不要なものも含まれていることから、救急需要の増加が見込まれる時期にあわせて、市民の方に対しホームページやSNSを活用した、救急車の適時・適切な救急要請を訴える情報発信をしています。



令和5年度冬季 ホームページトップ画面



令和6年度夏季 ホームページトップ画面



大阪府消防局 ホームページ

5 さいごに

当局では、救急需要増大に対応するべく、先に紹介したように救急体制の強化と救急需要抑制の両面から新たな取組を実施しています。しかし、このまま救急出場件数が増加し続けると、安定した救急行政サービスの提供ができなくなります。救急車には限りがあります。救急車を本当に必要とする方に、より確実に提供することができるよう、引き続き適時・適切な利用を訴えていきます。

OCRの導入

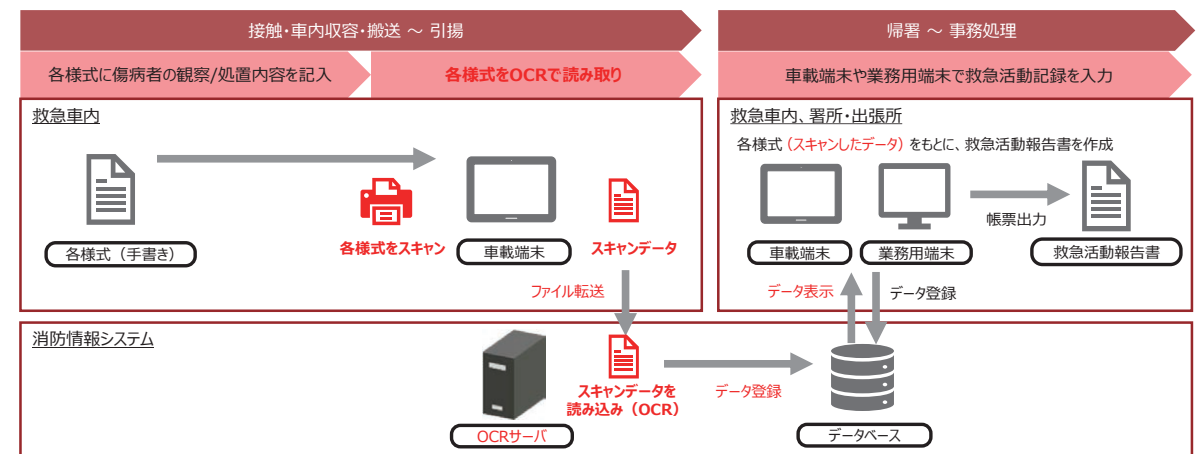
新型コロナウイルス感染症が流行していた頃は、傷病者の搬送先がなかなか決まらず、現場滞在時間が長時間に及び救急活動が多発し、搬送を終えるとすぐに次の救急要請が入り、救急隊は救急活動報告書(以下、「救急活動記録」という。)の事務処理を行う時間を確保するのが困難な状況でした。そのような状況を踏まえ、病院から消防署に戻るまでの時間を活用し、少しでも事務処理ができないかを検討した結果、新システムの救急活動記録の入力にOCRの機能を導入することになりました。

OCRとは、Optical Character Recognition(またはReader)の略で、紙や画像ファイルに書かれている文字を機器で読み取り、コンピュータで利用できるデジタルデータに変換する技術のことです。

今回、当局ではOCRの活用に向けて、救急活動記録の元情報となる新たな手書きの様式を導入することとしました。様式は4種類で、様式ごとに傷病者に関する情報、出場に関する情報、バイタルや処置に関する情報等に分かれています。救急活動中にはメモ紙として活用し、搬送先の医療機関での申し送りにも使用しつつ、病院からの引揚げ時にはその様式を、救急車内に積載する予定のスキャナーで読み取り、データ送信することで、システム上のデータベースに登録され、救急活動記録に情報が反映します。これを活用することで、救急活動記録の作成にかかる時間を短縮し、救急隊員の業務負担軽減が期待されます。



OCR端末



ORION(大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム)との連携

大阪府では救急隊の搬送先医療機関選定の利便性を高めて負担を最小限にするとともに、分析・検証を行うために必要となる病院搬送前と病院搬送後の救急搬送データの電子化・収集を可能とするシステム「大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム(ORION)」を運用しています。

しかし、現状、大阪市のシステムとは別のシステムであるため、救急活動記録を入力するにはデータの二重入力が発生しており救急隊の負担となっています。そういった負担を少しでも解消するために、新システムではORION上で入力した、医療機関の受入状況や搬送連絡に要した時間等の履歴のデータ(上限50件)が、救急活動記録に連携される予定です。

このように新たな技術の導入やシステムの連携により、事務に係る時間の短縮化を図り、その分の時間を救急救命技術の維持向上のための訓練や救急出場の合間の休憩時間に充てることで、救急需要が増大する中においても質の高い救急業務の遂行に繋げていくことができます。

くろぞ、万博。 2025年 大阪・関西万博

開催まであと220日です!!

※(令和6年9月5日現在)

みなさん、こんにちは!
「2025年大阪・関西万博」まで残り220日となりました。今回は、大阪・関西万博のバビリオン等の現地工事の進捗状況をお届けします。

海外パビリオン
世界中の国・地域が参加し、それぞれのテーマに沿って展示をします。今回参加する国・地域は、161を予定しており、タイプA、B、C、Xという4種類の何れかのタイプで建築し、出展します。

タイプA
参加国が建てた建物で自由な形状で構成できるもの

タイプB
博覧会協会※が建てた建物複数の参加国がテナントとして借り、使用するもの

タイプC
博覧会協会が建てた建物複数の参加国がブースで借り、共同して使用するもの

タイプX
博覧会協会が建てた建物を提供し、参加国が使用するもの

国内パビリオン・シグネチャーパビリオン
日本、関西、民間企業等が文化や取組等を紹介するプロデュースが手がけるシグネチャーパビリオンです。

大屋根リング
世界最大級の木造建築物となる大屋根リングは、一周約2キロメートル、リングの内径は約615メートルです。

大阪・関西万博のシンボルとして、迫力のある大屋根リングの完成まであと少しです。

万博会場整備
万博会場は、大阪湾を埋め立てて作られた人工島のため、水や電気などの供給設備が整備されています。そのため、博覧会協会が会場内のインフラ整備を進めており、令和6年5月に電力供給、7月に給水、8月に給排水の開始が予定されています。



よく知っていましたか?
①万博会場内に設置される消防設備について
②万博関係の届出等の窓口はどこになる?
実は万博会場内に消防センターが設置されます。ここでは災害対応する消防車両の配置のみならず、届出等の受付窓口を開設します。万博会場内の消防センターにお越しください。

R6							R7			
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
ランドスケープ工事（園路・配管・路盤・舗装・設備）							完了			大阪・ 関西 万博
海外パビリオンA			建築工事完了		内装・展示工事完了					
建築工事完了		海外パビリオンB・C					内装・展示工事完了			
海外パビリオンX			建築工事完了		内装・展示工事完了					
建築工事完了			国内パビリオン・シグネチャーパビリオン					内装・展示工事完了		
大屋根リング 木架構・屋根工事完了				設備・植栽工事完了						

消防検査
ピークに!



万博給水システムによる特例を認めています!
「屋外消火栓」及び「消防用水」については、施行令第19条及び第27条により、万博会場内において一定の距離で隣接し合う建築物を1の建築物とみなしているため、そのほかにどこに設置義務が発生しています。本来、建築物ごとにポンプや水源水槽を設けなければいけません。万博会場の2系統の給水システムそれぞれに給水ポンプ4台、受水槽及び発電設備が設置されています。会場に敷設された給水管に屋外消火栓が設置されており、水利消火栓を接続することによって、各パビリオンの敷地境界において規定の配管と接続し、放水圧力、放水量等は法令の基準を満たすよう関係者に指導しています。



No more! 事故

~撲滅への道~

119番通報を受けた際、安全かつ迅速に出場することで、いち早く災害現場へ駆けつける消防車両。消防車両は、安全に現場へ到着してこそ、最大限の活動が実施できます。このコーナーでは、各署で実施している交通事故防止への様々な取組や対策を紹介していきます。今月は、無事故日数が1000日に到達した、都島消防署の取組について紹介します。



都島救急隊の隊員

都島区の通行注意ポイント

都島区は南北に長く、南部と北中部で特色が異なります。南部は、乗降客数の多い京橋駅を中心に、大阪市内でも有数の繁華街です。飲食店も多いため店舗の張り出しテントなども多く、特に夜間は通行人が増加するという傾向があります。その為、車両で通行する際には車両周囲に確認する箇所が多く、細心の注意を払った走行が必要となります。

北中部は、主にマンションや戸建て住宅が立ち並び住宅地で、朝夕の通勤、通学時間帯に歩行者や一般車両が増える傾向にあります。その為、車両周囲に人が居れば、小隊長・機関員関係なく情報共有し、常に変化する道路状況の把握を心掛けています。

同じ管内でもエリアによって、より細かい注意が必要となる時間帯や対象が異なる、という特徴をもつのが都島区です。

この車、動かす時、気を付けて

都島消防署の救急隊は、令和6年3月末まで本署のLA隊を含めた3隊で活動していましたが、令和6年4月からは都島本署・東野田救急隊の2隊で活動しています。各隊の出場件数を見ても年間4千件以上の出場があり、大阪市内の救急隊の中でも件数の多い部類に入る救急隊ですが、6月末時点で無事故日数が1000日に到達しました。

救急車の運転は他の車両と違い、傷病者や付き添いの方等を乗せての運転となり、特に注意を払う必要があります。さらに救急車は、傷病者や付き添いの方々が乗車するスペースがとても揺れやすく、傷病者の症状によっては走行速度を落としたり、カーブ等の道路事情により加減速する等の注意が必要なポイントが多くあります。

また、救急現場での小移動や狭隘道路の通行等、静止物件事故の危険が高い場所では、必ず誘導員を付け通行するように心掛けています。



都島消防署の取組

交通事故防止への独自の取組

出勤回数の多い救急車が交通事故を発生させないためには「当たり前のことを当たり前のように行うこと」を徹底することに尽きます。コメントリードライブや安全確認の指差確認呼称、誘導要領を徹底することなど、小隊長と機関員、隊員が日頃からしっかりと意思疎通を図ることで事故防止に取り組んでいます。この凡事徹底の取組の下、事故件数の多い年代の隊員がどのような点に気を付けて救急車を運転しているのかを紹介します。

小隊長の声出しによる安心感!

【24歳消防士(正機関員)】
小隊長が声を出し、死角となる部分の安全確認をしてくれているお陰で、交通量の多い幹線道路や、歩行者の多い繁華街も安心して運転することが出来ています。

死角が多くなる車両左側の安全管理!

【28歳消防士長(機関兼務員)】
機関員から死角の多い左側の安全管理を隊長、隊員がしっかりと行っており、通行人や交通量の多い道路、狭隘道路であっても「左側オーライ」の一言に助けられている。



些細なことでも情報共有!

【27歳消防士長(正機関員)】
小隊長、機関員どちらも声を出し協力して、救急車の死角となる場所をできる限り無くすよう心掛けています。どんな些細なことであっても、小隊長と情報共有している。

コメントリードライブによる意思疎通!

【33歳消防士長(機関兼務員)】
運転中はコメントリードライブを怠らず、自分の意思を常に声に出し乗組員に伝えるように努めている。そうすることにより小隊長と運転している私の認識が一致し安心して運転することが出来る。

無事故チャレンジ達成日数(令和6年7月末)

北	都島	福島	此花	中央	西	港	大正	天王寺	浪速
153	1031	53	275	158	463	198	700	544	21
西淀川	淀川	東淀川	東成	生野	旭	城東	鶴見	阿倍野	住之江
31	115	273	170	372	337	87	13	32	501
住吉	東住吉	平野	西成	水上					
161	370	374	92	194					

企画課 服務指導からのコメント

～救急車の運転について～

救急車の運転は、傷病者や付き添いの方等を乗せているため、特に慎重さが求められます。急ハンドルや急ブレーキを避けるための車間距離の確保や、道路事情によりスピードを減速して走行するなど細かな注意が必要です。

都島消防署の取組では、小隊長と機関員が協力し、死角の確認や情報共有を徹底することで、無事故日数1000日を達成しています。これは、日常的なコメントリードライブを実践し、乗組員全員で危険箇所等を共有した成果と言えます。

今後も、これまでの取組を継続し、乗組員一丸で安全運行に努めてください。

1

苦勞したのは、どのような部分ですか？

滑舌良くしゃべることです！
 と言うのは冗談ですが、訓練では、各隊員から積極的に中隊長の無線内容やタイミングなどの変更点を進言してもらい、出場隊員以外の職員からは、訓練以外の業務等も含め、労を惜しまない協力を得て、まったく苦勞のない充実した訓練期間を過ごさせていただきました。



2

中隊長として心がけていたことはありますか？

訓練を始めるにあたって、隊員一人ひとりが、楽しんで訓練をすることができるようにしたいと考えていましたが、隊員達が自ら進んで『明るい雰囲気』を作ってくれて、いつの間にか中隊長の自分が一番訓練を楽しんでいました。



3

2カ月間苦勞を共に訓練してきた隊員に一言お願いします。

「最優秀署 指揮本部長！」にしてください、ありがとうございました！！



西成消防署

警防技術練成会最優秀署 に聞きました



令和6年6月4日、大阪市高度専門教育訓練センターで実施された、令和6年度警防技術練成会において最優秀署となった西成消防署を紹介します。
 「最優秀までの軌跡」として、出場隊員はもちろん、支援に携わった皆様にもお話を伺いました。

1

訓練をする中で工夫した点3つと
得られたものを教えてください。

- ・ 操法後に毎回ミーティングを行う。
- ・ 直近隊小隊長の訓練準備完了は最後。
- ・ スピードではなく、減点のない操法への意識づけ。

全員が建設的な意見を交わせる雰囲気を意識したミーティングを行ったことで反省点や改善点を全隊で共有できました。また、訓練の際に若年層隊員が慌てず準備ができ、落ち着いて訓練に臨めました。
 さらに、スピードではなく、減点のない操法への意識づけを重視することで、必然的にスピードに繋がりました。



2

西成中隊のここだけは譲れないという
訓練でのこだわりを教えてください。

出場隊員はもちろん、支援員も含め、西成署員全員が…

『とにかく明るい雰囲気』づくりとチームワークを大事にしました。
 支援員の方々からは、人員配置の調整、訓練施設の設営、訓練時の支援や的確なアドバイス等のサポートがあり、集中して訓練に取り組むことができました。



1 過去のステップ出場経験から意識したことはありますか？

3回目のステップ出場で、過去の悔しい経験を踏まえ、隊員一人ひとりが意見を言える雰囲気を作り、個々の長所を活かすことができる操法を意識したこと、体力や精神力を重視した通し訓練の反復に取り組ましました。

2 中継隊で初出場の隊員が2名いましたが、心掛けた指導はありますか？また、これからも若い隊員が出場すると思いますので、アドバイスをお願いします。

隊長に言われるがままの操法をするのではなく、隊員自身が主体性を持って自分や隊にとってベストな操法を目指して訓練に励みました。
はじめは訓練するだけで必死であった隊員が、訓練期間の中盤からは、隊長の指示だけではなく、隊員同士で意見を出し合い伝え合い、中継隊としての操法が良くなっていったことが今回の結果に繋がったと思います。
若手隊員の方は、どうしたらよい結果に繋がるのか、自分の考えや思いを持って訓練に励むこと、また、周りからの指導に感謝し、打たれ強さを身に付けて訓練に取り組むこと、それらを続けることができれば、自然と結果はついてくると思います。『災害現場活動に活かす』ために、精一杯頑張ってください。

支援に携わった皆様に質問 2 若い職員から見て、この訓練はどうでしたか？

訓練時はもちろんですが、訓練以外にも小隊全員で限られた時間を有効に使い、消防隊のプロとしてどのように取り組むべきかを間近で見せて頂きました。感動をありがとうございます。
最優秀おめでとうございます！

若手のホープ H消防士長より



1 着任後すぐに訓練が始まり、最優秀賞獲得まで駆け抜けたと思いますが、今どのようなお気持ちですか？

最優秀獲得なんて、アンビリーバブルな気持ちです。訓練を通じて色々和本音で話し合ったからこそ、短期間で結束力が強くなり今回の結果に繋がったと思います・・・と言いたいところですが、訓練が終わり、やっとN主任に嫌味を言われなくなりホッとした気持ちです！

2 趣味はサッカーだとお聞きました。サッカーで鍛え上げられた体。怪我予防など、訓練を通じて体のメンテナンス等はされましたか？

整骨院通いと愛妻の食事での栄養補給♡ですね。体力には自信がありましたが、久しぶりの防火衣に呼吸器を着装しての訓練。毎日、体が悲鳴を上げていましたが、整骨院での治療と家族からの応援で、何とか乗り越えることができました！

3 2カ月間苦勞を共に訓練をしてきた皆さんに一言お願いします。

最高の隊員、支援の皆様を支えられ、とても良い雰囲気での訓練ができました。ありがとうございました！



支援に携わった皆様に質問 1 支援する中で心がけたことは何ですか？

- ・出場隊員が訓練中、ネガティブにならないように心がけました。
- ・怒る指導を止め、出場隊員が考えた操法を否定せず、出来たことを中心に声かけをポジティブに。
- ・訓練が1回終わる毎に出場隊員はミーティングを実施。そこに支援要員も参加して意見を出し合いました。
- ・急かして回数をこなすのではなく、しっかりと時間をかけて操法を作り上げることで、訓練1回の質が高まったように思います。

支援に携わった職員一同より

